

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 32人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(H30.3月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

自然再生協議会全国大会(麻機^(あさはた)遊水地保全活用推進協議会) 【報告者】広島県自然環境課 村田 博史

毎年開催されている環境省主催による自然再生協議会全国大会が平成30年11月26日・27日に静岡市「麻機遊水地保全活用推進協議会」(中心市街地より北方約5km:2級河川「巴川」中流域で医療・福祉・支援学校等施設が集中)で開催されました。当協議会からは、内藤保全・管理部会幹事と事務局の村田の2名が参加しました。

【1日目】現地調査が行われ、「静岡てんかん・神経医療センター」の久保田氏の特別講演のあと、同氏の案内でセンター周辺の現地調査を行いました。同協議会の取り組みは「医療・福祉特区構想」を基に「医福教」の連携を中心とした麻機遊水地の活用から、病気や障害のある人、高齢者の憩いの場となるよう、自然環境を整備し、これらの人々の地域での役割や雇用を創出し、安心して豊かにくらすための街づくりを目指すもので、ドイツの都市ビーレフェルトにあるボーデルシュヴィング医療福祉総合施設ペーテルをモデルにしています。また、講演の中で同氏は活動目標について、最初から大風呂敷を広げず日頃の活動は小規模なものでも身の丈に合った活動を行うことが活動継続の秘訣であること、コミュニケーションなくしてコミュニティーなしとの言葉が印象的でした。その後、静岡市都市局の案内で同市が整備する都市公園区域の視察を行いました。「自然とふれあう体験型の都市緑地 あさはた緑地」として、これまで鬱蒼として利活用の難しかった遊水地を住民が気軽に訪れ利用できるよう都市公園として整備されたものです。新たに整備された遊水地では、地元自然保護団体により動植物の観察会や市主催によるイベントが開催され賑わいの創出場となっています。



☆センター周辺(福祉農園・水田)区域の現地調査



☆都市公園区域の視察(内藤保全・管理部会幹事)

【2日目】「もくせい会館」に会場を移し全体会議を開催、環境省から自然再生推進法の基本方針の見直しについて、進捗状況・概要が説明され活発な意見交換が行われました。主なものに参画団体が増えない現実を踏まえ、法定外の任意団体からもヒアリングを行っていること、協議会の活動活性化の観点から、今回開催地協議会の様に「自然再生地の利活用」を踏まえ、全国の各協議会も必要に応じて活動内容等をリニューアルしてはとの助言がありました。各協議会からは、環境省の支援のあり方等について厳しい意見や要望がありました。

以上、限りのあるニュースレターでの報告となりましたが詳しい資料が必要な場合は、事務局までお問い合わせください。

* 麻機の協議会では、会名から自然再生の文字を外し、保全活用推進としている。

麻機遊水地保全活用推進協議会【自然再生全体構想】

麻機の自然は、原生自然ではなく、歴史的、文化的な人と自然との関わりから生まれた里地里山環境でありました。しかし、戦後の急激な人々の生活様式や社会環境の変化によりその輪が乱れ、かつてあった豊かな自然が徐々に衰退してきています。

そのため本構想では、良好な生態系(環)、里地里山環境にあった人と自然との共生(和)、そして周辺の自然とつながり(輪)を取り戻し、後世に伝えるために「生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機」を目指します。